

Once upon a time in Utsunomiya

# 一枚の絵葉書から

石井敏夫コレクションより

第52回

池上町に竣工した、堂々とした第一八百駒。  
屋号のレリーフが鮮やかだ



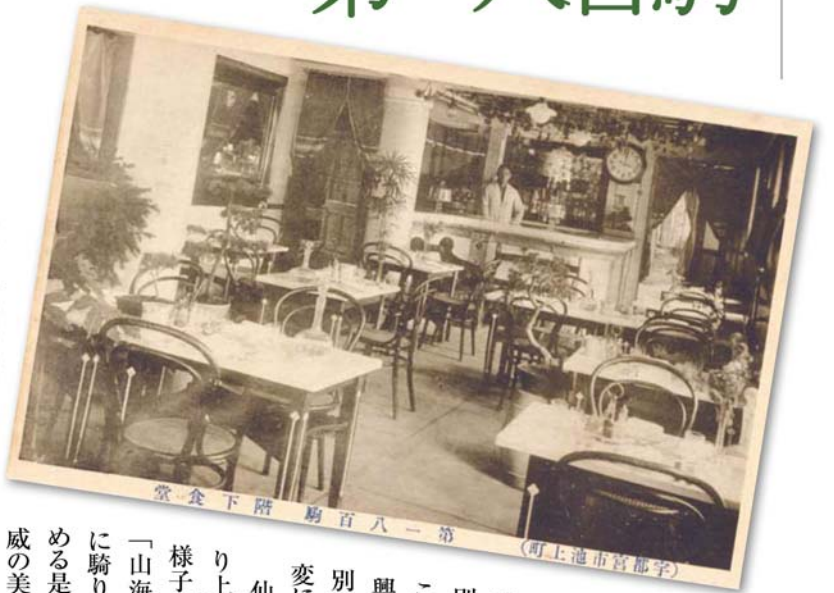
第一八百駒 池上町 宇都宮市 第一八百駒 洋和 建築設計事務所



第一八百駒 池上町 宇都宮市

大八車が並ぶ第一八百駒営業部

# 第一八百駒



椅子テーブル席の食堂。カウンターには調理人の姿が

一九八八(明治三十二)年発行の『宇都宮繁昌記(春圃居士)に「仙郷」という項目がある。仙郷とは、「仙人が住む土地」とか、「俗界をはなれた、清らかで景色の勝れた地。別天地」のことを指すが、ここでは料理屋や遊郭など遊興街の店名が並び、なるほど別天地とはこういうものかと変に納得させられた。

仙郷の中のひとつ料理屋を取り上げた「料理鹽梅」には、その様子が次のように描かれている。「山海の珍味を座中に集め、鶴に騎りて揚州に上らん快樂あらしめる是、儀狄の酒、易牙の調、南威の美、其己れの欲するが儘なるものあれば也。(後略)壽命を延ぶ、不死の薬とや言わん」。いつの時代も美食、美酒を追い求めるの

はまさしく人間の性。十二にのほる料理屋、そして蕎麦屋、寿司屋の紹介文が興味深い。

中でも「八百駒本店(曲師町)」は、「宇都宮に於ける牛肉店の老舗たり、近来会席料理を調え評判宜し」とあり、支店として「第一八百駒(池上町)」「第二八百駒(池上町)」がその名を連ねている。その紹介文は次の通り。第一八百駒は、「曲師町に於ける八百駒の第一支店にして、西洋料理、鶏牛肉ソップ、牛肉等調理頗る宜しく聞へ高し」。第二八百駒は、「曲師町八百駒の第二支店たり客足繁く評判尤も良し」。本支店とも、その人気ぶりがうかがえる。

絵葉書は新装なった洋風四階建ての第一八百駒と食堂の様子。大正後期ごろと思われる。百畳敷きの大広間もあり、多くの人々に親しまれた。